

松原市文化財報告 第7冊

# 大和川今池遺跡・ 狐塚古墳跡

松原市天美西5丁目・6丁目地内における宅地造成工事に伴う  
大和川今池遺跡・狐塚古墳跡B3-3-39発掘調査報告書

令和2年（2020）5月

松原市教育委員会



# 例　　言

1. 本書は、令和元年度に実施した、大阪府松原市天美西5丁目106番の一部、260番12の一部、天美西6丁目262番1、262番2、263番1の一部、264番1の一部、264番3、266番1、266番2、267番、558番1の一部、558番3の一部、水路敷における大和川今池遺跡・狐塚古墳跡の発掘調査報告書である。
2. 調査依頼者は、エイ・アンド・ケイ建物株式会社で、当該地における宅地造成工事に伴い発掘調査を実施した。
3. 発掘調査及び整理作業にかかる費用は、エイ・アンド・ケイ建物株式会社が負担した。
4. 現地調査は、令和元年(2019)9月2日から開始し、同年11月19日まで行った。引き続き、令和2年(2020)5月31日まで、整理作業を行った。
5. 調査面積は、1,069m<sup>2</sup>である。
6. 松原市教育委員会における調査番号の呼称は、B.3-3-39である。
7. 現地調査は、松原市教育委員会 横木規秀が担当し、河野凡洋(株式会社アート)が補佐した。整理作業は、横木規秀が担当し、岡本武司(株式会社アート)が補佐した。
8. 本書の作成は、1 調査の経緯と経過の執筆を横木が、それ以外の執筆・編集を岡本が担当した。
9. 本書で用いた平面座標値は、すべて世界測地系2011平面直角座標系第VI系に則する。また水準値は、東京湾平均海面高(T.P.)を基準とし、いずれもm単位で表記した。また標高に冠する“T.P.+”号は本書では省略している。
10. 土層の土色及び土壤粒状区分の判定、土器の色調判定については、小山正忠・竹原秀雄編 2014『新版標準土色帖』36版 農林水産省農林水産技術会議事務所・財団法人日本色彩研究所監修、日本色研事業株式会社発行を用いて行った。
11. 遺物実測図について、土器の断面を、須恵器は、黒色、瓦器・瓦は、灰色で塗り表現した。
12. 今回の発掘調査に関わる出土遺物、写真、図面等の記録媒体は、すべて松原市教育委員会が保管している。
13. 参考文献
  1. 大和川・今池遺跡調査会 1979「大和川・今池遺跡 - 第1地区 発掘調査報告-」
  2. 大和川・今池遺跡調査会 1980「大和川・今池遺跡 II 第3・4・5地区 発掘調査報告書」
  3. 大和川・今池遺跡調査会 1981「大和川・今池遺跡 III 第6地区・「古道」 発掘調査報告書」
  4. 大阪府教育委員会 1998「大和川今池遺跡」大阪府埋蔵文化財調査報告 1997-1
  5. 財团法人大阪府文化財調査研究センター 2000「大和川今池遺跡 (その1・その2)」財团法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第53集
  6. 財团法人大阪府文化財調査研究センター 2001「大和川今池遺跡 (その3・その4)」財团法人大阪府文化財調査研究センター調査報告書第65集
  7. 財团法人大阪府文化財センター 2003「大和川今池遺跡 (その5・その6・その7)」財团法人大阪府文化財センター調査報告書第90集
  8. 大阪府教育委員会 2005「大和川今池遺跡」大阪府埋蔵文化財調査報告 2004-4
  9. 大阪府教育委員会 2008「大和川今池遺跡」大阪府埋蔵文化財調査報告 2007-7
  10. 財团法人大阪府文化財センター 2009「大和川今池遺跡 I」財团法人大阪府文化財センター調査報告書第191集
  11. 財团法人大阪府文化財センター 2009「大和川今池遺跡 II」財团法人大阪府文化財センター調査報告書第192集
  12. 財团法人大阪府文化財センター 2010「大和川今池遺跡 III」財团法人大阪府文化財センター調査報告書第202集
  13. 大阪府教育委員会 2010「大和川今池遺跡」大阪府埋蔵文化財調査報告 2010-1
  14. 財团法人大阪府文化財センター 2011「大和川今池遺跡 IV」財团法人大阪府文化財センター調査報告書第214集
  15. 公益財团法人大阪府文化財センター 2011「大和川今池遺跡・天美西遺跡」公益財团法人大阪府文化財センター調査報告書第221集
  16. 大阪府教育委員会 2017「大和川今池遺跡」大阪府埋蔵文化財調査報告 2016-6
  17. 松原市教育委員会 2018「松原市文化財分布図 2017」

# 目 次

1 調査の経緯と経過	
(1) 調査の経緯	.....
(2) 調査の経過	.....
(3) 調査の方法	.....
現地調査	.....
整理作業	.....
2 位置と環境	
地理的環境	.....
歴史的環境と既往の調査	.....
3 基本層序	.....
4 検出遺構と出土遺物	
(1) A区の調査	.....
(2) B区の調査	.....
(3) C区の調査	.....
(4) D a 区の調査	.....
(5) D b 区の調査	.....
5 結語	.....

挿図	図版
第1図 調査トレント位置図 1:600	図版1 A区の調査
第2図 発掘調査範囲図 1:12000 大和川今池道路・狐塚古墳跡位置図 1:50000	図版2 A区の調査
第3図 調査区土層柱状図 1:20	図版3 B区の調査
第4図 A区平面図 1:40	図版4 B区の調査
第5図 73土坑・74土坑遺物出土状況平・断面図 1:10	図版5 C区の調査
第6図 B区平面図 1:50	図版6 C区の調査
第7図 A区・B区遺構断面図 1:50	図版7 C区の調査
第8図 C区西端部平面図 1:80	図版8 81落込（A区・B区・C区）の調査
第9図 C区西部平面図 1:80	図版9 D a 区の調査
第10図 C区東部平面図 1:80	図版10 D a 区の調査
第11図 81落込平面図 1:400・断面図 1:50	図版11 D b 区の調査
第12図 C区遺構断面図 1:50	図版12 出土遺物
第13図 D a 区北部平面図 1:80	
第14図 D a 区南東部平面図 1:80	
第15図 D a 区南端部・D b 区平面図 1:80	
第16図 D a 区・D b 区遺構断面図 1:50	
第17図 出土遺物図 土器・埴輪・瓦 1:4 石器 1:2	
第18図 周辺小字図と秦里地割 1:6500	
第19図 全体平面図 1:500	

# 1 調査の経緯と経過

## (1) 調査の経緯

本調査の契機は、大阪府松原市天美西5丁目106番の一部、260番12の一部、天美西6丁目262番1、262番2、263番1の一部、264番1の一部、264番3、266番1、266番2、267番、558番1の一部、558番3の一部、水路敷においてエイ・アンド・ケイ建物株式会社により宅地造成工事が計画されたことによる。

松原市教育委員会は、計画地が大和川今池遺跡・狐塚古墳跡の範囲内に所在するため、事業者と協議し、埋蔵文化財確認調査を実施することとなった。令和元年(2019)5月8日～10日、6月13日に確認調査を実施したところ、一部において古墳時代～古代の遺構・遺物を確認した。そのため、確認した埋蔵文化財の取り扱いについて引き続き協議し、埋蔵文化財が影響を受ける範囲(1,069m<sup>2</sup>)について記録保存調査を実施することとなった。この後、発掘届の提出を受け、本市教育委員会と事業者との間で、令和元年(2019)8月14日付けで埋蔵文化財保存に関する協定を締結し、令和元年(2019)8月26日付けで発掘調査の実施に関する覚書を取り交わし、本発掘調査に着手した。

## (2) 調査の経過

調査区は、埋蔵文化財の検出範囲に合わせ、A区～D区に分け、このうちD区は残土置き場の関係で、D a区とD b区に分割した(第1図)。令和元年(2019)9月2日よりD a区の調査を開始し、C区、D b区、A区ならびにB区の順に進めた。それぞれの調査区では、重機掘削・遺構検出・遺構掘削・遺物取り上げ・写真撮影・図面作成作業を行い、令和元年(2019)11月19日に機材の撤収を完了し、現地調査を終了した。この後、整理作業を行い、令和2年(2020)5月31日付けで本報告書の刊行をもって全ての作業を終了した。

## (3) 調査の方法

### 【現地調査】

【調査番号】 松原市では、調査番号を表記する際、昭和56年度(1981)より「松原市道路台帳地図」の図面割を使用している。この図面割は、国土交通省(旧建設省)国土地理院の定める日本測地系による平面直角座標

系第VI系に準拠しており、X= - 155.4km、Y= - 44.0km～X= - 160.8km、Y= - 37.6kmの範囲を、東西800m、南北600mの大地区で、東西に8区(A～H)、南北に9区(1～9)に分けるものである。さらに、それらの各区画は、東西400m、南北300mの4つの小地区(1～4)から構成されている。これに基づき、調査名は大地区～小地区～調査番号(調査次数の番号)と表記しており、本調査名はB 3 - 3 - 39である。

【座標・水準】 本書で用いた座標値は世界測地系による平面直角座標系第VI系の数値で、m 単位で表記した。水準は東京湾平均海面(T.P.)を基準とし、本文では、T.P.を省略して表記した。なお、方位は座標北である。

【遺構番号】 遺構番号は、遺構を示すSの後に、遺構の種別を問わず遺構の検出順に番号を付した(例 S 001)。複数の調査区にまたがる遺構については、後の整合性を考慮し同一の番号を使用した。なお、本文では冒頭のSを省略し末尾に遺構の種類を記述した(例 50 土坑)。

【図面・写真】 図面については、光波測距機による電子平板測量で作成したほか、撮影写真を Agisoft 社製 Metashape1.62 を用いて写真測量解析作業を行い、オルソ写真を出力して作成した。図面は、S = 1 : 20 の遺構平面図・S = 1 : 10 の個別遺構断面図・S = 1 : 5 の遺物出土状況図・S = 1 : 20 の調査区壁断面図等を作成した。

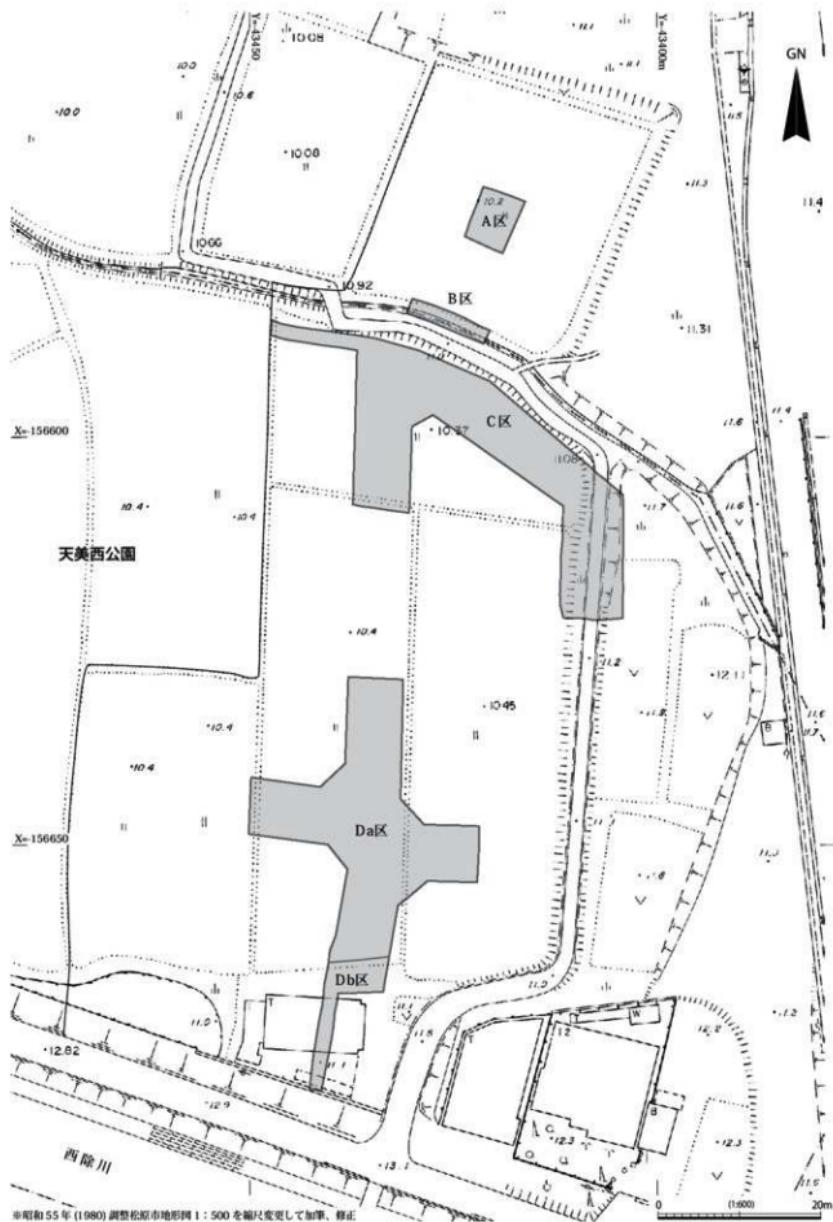
写真撮影は、Canon 社製フルサイズのデジタル一眼レフカメラを使用した。撮影は RAW・JPEG 形式で行い、RAW 形式のものは、その後 TIFF・JPEG 形式に変換して保存した。

### 【整理作業】

【遺構】 遺構図の合成及び報告書に掲載する遺構写真の編集は、Adobe 社製 PhotoshopCS5.5 を用いて行った。遺構図のトレースは Adobe 社製 IllustratorCS6 を用いてデジタルトレースを行った。

【出土遺物】 出土遺物は洗浄した後、注記を行った。注記は一覧表を作成し、出土単位ごとに遺物番号をつけ、調査番号・遺物番号・出土年月日を明記した(例 B 3 - 3 - 39 0001 20190902)。注記後は、抽出を行った後、接合・復元を行い、実測図を作成した。実測図のトレースは Illustrator CS6 を用いてデジタルトレースを行った。報告書に掲載するものについては写真を撮影し、Photoshop5.5 を用いて編集した。

最後に、作成した原稿・挿図・図版の編集を Adobe 社製 InDesignCS5.5 で行い、本書の刊行に至った。



\*昭和 55年(1980) 調整松原市地形図 1:500 を縮尺変更して加筆、修正

第1図 調査トレンチ位置図 1:600

## 2 位 置 と 環 境

### 【地理的環境】

大和川今池遺跡・狐塚古墳群は、大阪府松原市の北西部に位置する遺跡で、狐塚古墳は、大和川今池遺跡内に所在し、今日では全壟した古墳である。

松原市は、河内平野の南端部に位置し、山地、丘陵はない。市域東方は南から伸びる羽曳野丘陵先端の舌状台地であり、市域西方は和泉地方から北伸し上町台地へと続く泉州北丘陵の先端の台地状地形である。これら東西両台地上地形の間は主として沖積地帯であり、大阪狭山市に所在する狭山池付近を中心に扇状に広がる平坦地形となっている。この扇状地形の西縁には西除川、東縁には東除川が北流していて、市域北辺を西流する大和川に至っている。

なおこの大和川は、宝永元年(1704)に本來、柏原市から北西に流れていたものを受け替えられた人工河川で、それ以前は東除川、西除川とも大阪市平野区、東住吉区方面へ北流していたものである。大和川今池遺跡はこの沖積平地の西側を画する段丘上に立地する遺跡で、微細な高低差はあるものの概ね平坦地形で、標高は、10.0 m前後である。

### 【歴史的環境と既往の調査】(第2図・第17図)

松原市においては、旧石器時代の遺構は確認されておらず、台地上においてわずかにナイフ形石器等の出土を見るのみである。縄文時代に至っても、明確な遺構は未だ確認されていない。しかしながら近年、三宅西遺跡において、埋没河川からではあるが、良好な遺存状態を保つ縄文時代後期中葉の土器群の出土を見た。遺構こそは確認されなかつたが、集落が存在していたことは間違いないであろう。

弥生時代においては、池内遺跡において、近年、前期中葉の水田跡と大溝、集落跡などが確認され注目される。これらは環濠集落である可能性もある。中期においては、市内西方の高木遺跡、あるいは東方の若林遺跡において、集落遺構が認められる。弥生時代後期以降は遺跡数は増加傾向にあり、大和川今池遺跡では、遺跡東端域の調査で弥生時代後期の土器の出土を見るが、明確な集落遺構の確認には至っていない。弥生時代後期から古墳時代初頭では、上町田遺跡が著名である。昭和39年(1964)に行われた発掘調査で出土した上町田式土器と称された土器群は、現在、庄内式土器、布留式土器といった古式土器研究の先鞭となるものであった。また弥生時代後期

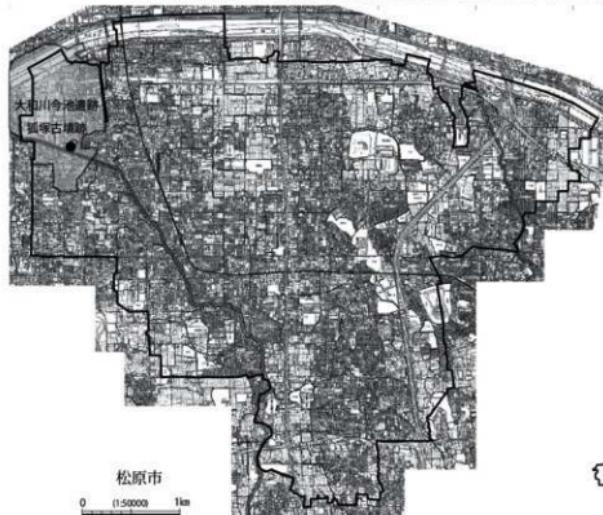
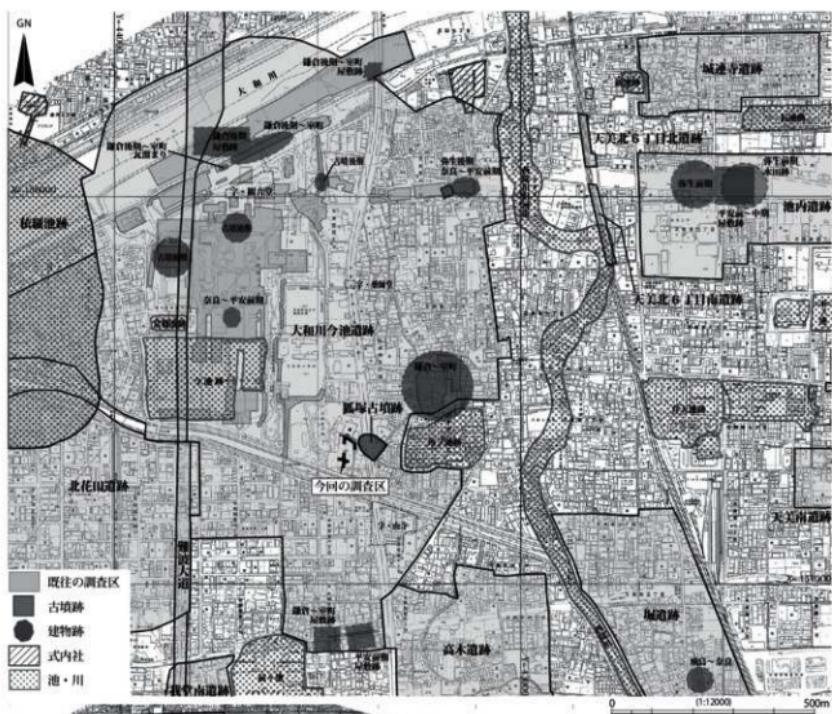
の大規模な水田跡も確認され、この当時からいわゆる沖積段丘上の開発が始まった様相が窺われる。

古墳時代に至っては、市内においては、広く集落形成が進んでいた様子である。大和川今池遺跡においても堅穴住居址や掘立柱建物等が確認され集落が存在していたことが知られる。確認される集落は概ね本遺跡の中核部分ともいえる旧今池(溜池)の北方域に位置し、古墳時代後期のものである。しかしながら今回の調査に至る確認調査(B3-3-38)において、第17図7に図示するような初期型の須恵器碗が出土しており、本遺跡における集落形成はさらに早い段階から成されていた可能性が考えられる。一方、上町田遺跡においては、弥生時代後期水田よりも東方で水田跡が確認されており、段丘上の開発もさらに進展していたことが窺われる。

松原市域において古墳は、現在、河内大塚山古墳(宮内庁陵墓参考地)が見られるのみである(東半部は羽曳野市域)。古市古墳群と百舌鳥古墳群の中間に位置する市域には、両古墳群にみられるような大古墳は、この河内大塚山古墳のみである。しかしながら発掘調査において、後世の開発により損壊した小規模な古墳の存在が知られる。立部遺跡では、一辺または直径4~12m程度の7基の小規模古墳群が確認された。そのほかにも市内随所で古墳の痕跡や、埴輪の出土が確認されており、市域において在地勢力の定着が一層進んでいたことが推察される。大和川今池遺跡においても、近年、遺跡東端部の調査で方墳跡の存在が確認された。埋葬施設に埴輪棺を有し、形象埴輪を伴うもので、西除川左岸における在地勢力の存在を窺わせるものである。

飛鳥時代から奈良時代にかけては、市内の開発は国家的規模で進められることになる。大津道、丹比道といった官道の設置である。大和川今池遺跡では、難波大道と称される南北直線道路遺構が確認された。これは日本書紀にみられる難波宮から発する直線大道に相当するものとされる。また一方、河合遺跡では大規模な官衙を彷彿させる掘立柱建物群も確認され、丹比郡衙の所在に一石を投じることになった。

奈良時代以降、平安時代に至り、市内では随所で大規模な掘立柱建物跡が確認される。市域東方の段丘上に立地する蔵重遺跡、蔵重東遺跡では、数棟の建物跡や堀または柵と思われる一群の遺構が確認され、屋敷跡あるいは官衙跡と想定される。またその東方の別所遺跡においても奈良時代の井戸跡が確認された。さらに東方の大堀



第2図 発掘調査範囲図 1:12000 大和川池遺跡・狐塚古墳跡位置図 1:50000

遺跡においても平安時代前～中期と思われる井戸や建物跡が確認されている。市域中西部では、池内遺跡において平安時代前～中期における掘立柱建物群を確認した。周溝を伴う屋敷地と想定されるものも確認されている。大和川今池遺跡においても旧今池北方と遺跡東端部の調査において当該時期の建物群を確認しており集落が形成されていたことがわかっている。特筆すべきは、遺跡南端部で近年確認された平安時代前期の建物群である。東と西に建物群を囲むと思われる大溝を有しており、その東西の溝間は凡そ 70 m に及ぶもので、屋敷跡と想定されている。こういった屋敷跡や官衙らしき建物群が市域随所で見られるのは、この時期に莊園開発が大規模かつ複雑に進められたためであろう。

平安時代末期から鎌倉・室町時代においては、本市域、殊に南部の丹南地域は、河内鶴ヶ原の拠点であった。発

掘調査においても、丹南遺跡、立部遺跡、岡遺跡などで鶴ヶ原工房と推察される遺構群が確認されており、盛んに鉄製が行われていたことがわかっている。また南北朝の対立、室町時代畠山氏の争乱等に伴い小規模な城砦も市内に構築されたことが知られるが、発掘調査では未だ明らかとはなっていない。その中で大和川今池遺跡において、鎌倉時代後期から室町時代前期における溝に囲まれた屋敷地と思われる遺構が 3 カ所確認されている。またそのほか大量の瓦溜まりの存在や小字名などから「觀音堂」、「薬師堂」、「山寺」と称される寺院が遺跡内に存在していたことが想定される。

### 3 基 本 層 序

(第 3・17 図)

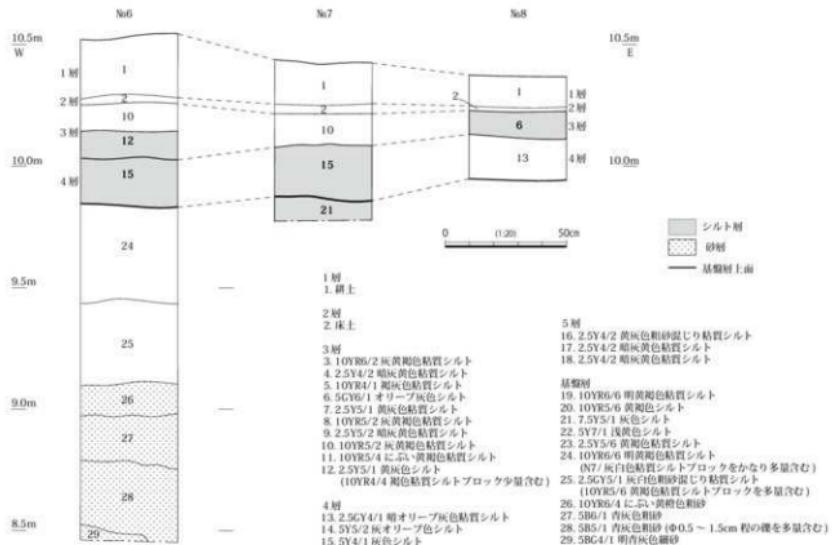
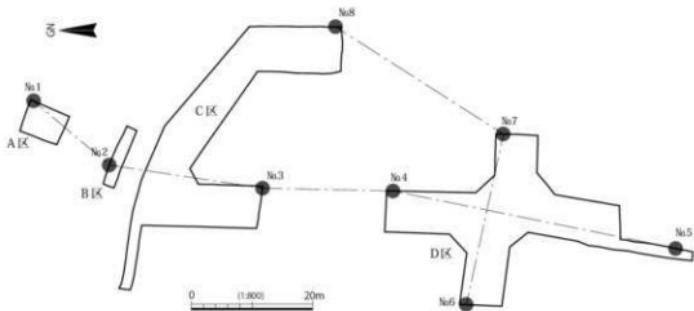
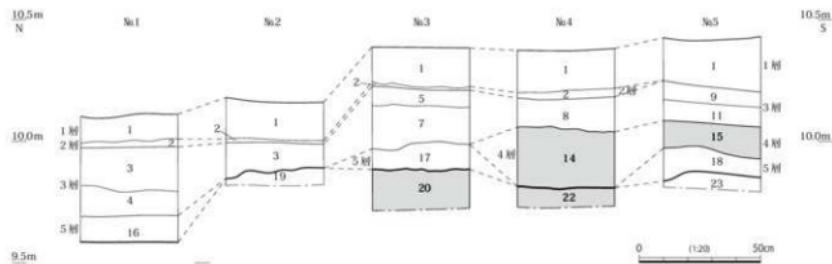
調査地の現地表面の標高は、調査地北端部の A 区で 10.1 m、B 区で 10.2 m、中央部の C 区で 10.35 ~ 10.4 m、南端部の D b 区で 10.45 m であり、北に行くほど低くなる地表面を形成している。特に C 区北側の東西方向の水路を隔てて北側と南側では段差を有する。なお調査地西隣地の現況標高は 13.7 m で、調査地とは 3.3 ~ 3.6 m の高低差があり、南隣地は、現況標高 13.0 m で高低差は 2.6 ~ 2.9 m、東隣地は、現況標高 12.0 m で、高低差は 1.6 ~ 1.9 m を測る。よって調査地は周囲とは 1.6 ~ 3.6 m の高低差を測る窪地状の地形となっている。しかしながら西隣地は天美西公園の造成に伴い盛土施工されたものであり、南隣は西除川の堤防として築堤されたもので、東隣も府道大阪狭山線の道路造成により盛土されたものであるため、本来は現況に見るような窪地状の地形ではなかった。昭和 36 年(1961)の大阪府地形図によれば、天美西公園造成前の地表面標高は、10.2 ~ 10.4 m、府道大阪狭山線造成前の地表面は、11.1 ~ 11.3 m で、現況窪地状の地形は、周囲の盛土造成により取り残された結果であることがわかる。

調査地における遺構検出面に至るまでの堆積土層は、1 層から 5 層に大別分層することができる。層序は、上から 1 層：耕土層、2 層：床土層、3 層・4 層・5 層：包含層となっている。1 层：耕土層は、現代の耕作土層で、市域における近年の都市開発以前の現地表面である。2 層は 1 层：耕土層に伴う床土層である。床土層は農耕地を形成する土層の一部で、通常は 2 ~ 5 cm 程度の層

厚で、現代の土層またはそれに近い土層である。3 層は包含層ではあるが、調査地においては、歴史的に過去の耕作土層を積み上げた耕作土の累積土層で、人為的堆積土層である。3 層の上面標高は、A 区、B 区では、9.95 m、C 区、D a 区、D b 区では、10.2 ~ 10.25 m で、地表面と同様に C 区北側の東西方向の水路挟んで南北で段差を伴い北側が低くなっている。4 層は、A 区、B 区には存在せず、C 区南半部以南に分布する。上面の標高は 10.05 ~ 10.15 m である。シルト質が顯著な土質から、河川氾濫後の水成堆積層である可能性が考えられる。5 層は、A 区、東端部を除く C 区、D b 区との 3 カ所に分布し、B 区、C 区東端部、D a 区には認められない。これは 4 層が 5 層を侵食しているためと思われる。上面の標高は、A 区では 9.7 m、C 区、D b 区では 9.9 ~ 10.0 m で、やはり A 区と C 区以南では段差を有する。

A 区、C 区、D b 区では 5 層下、B 区では 3 層下、D a 区では 4 層下が、今回の調査における遺構検出面である。埋没河川などの水成堆積層最上層部を構成する安定化土層で、当該調査地の基盤層と考える。基盤層以下の下層確認調査においては、標高 9.2 m 以下に河川堆積層と思われる厚い粗砂層を確認することができた。

3 ~ 5 層包含層からは、土器器碗・皿・高杯・甕・羽釜・擂鉢・須恵器・瓶・瓶子・蓋・甕・瓦器碗・青磁碗・陶器擂鉢・施釉陶器・丸瓦・平瓦、サヌカイト剥片が出土したが、いずれも小片ばかりであった。第 17 図 3 に B 区出土の丸瓦を図示しておく。



第3図 調査区土層柱状図 1:20

## 4 検出遺構と出土遺物

今回の調査においては、A区、B区、C区、D a区、D b区すべての調査区を合わせて、80基の遺構を確認することができた。そのうち溝は16条、土坑は63基でA区、B区、C区にわたる落込1基も確認された。なおこの落込については、C区にまとめて記載することとした。

### (1) A区の調査

A区においては、落込を1基のほか土坑を24基確認した。溝はなかった。

#### [50 土坑] (第4・7図)

北壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出長は、 $1.1 \times 0.42$ m、深さ0.4mである。5層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、74土坑を切る。土師器壺小片が出土した。

#### [51 土坑] (第4・7図、図版1)

北壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては半円形状を呈する。検出長は、 $0.66 \times 0.28$ m、深さ0.28mである。5層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、遺物の出土はなかった。

#### [53 土坑] (第4・7図)

西壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては半円形状を呈する。検出長は、 $0.3 \times 0.78$ m、深さ0.14mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### [54 土坑] (第4・7図)

不整形な小土坑で、規模は、 $0.35 \times 0.29$ m、深さ0.19mである。基盤層上面で検出した。72土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [55 土坑] (第4・7図、図版1)

不整形な小土坑で、規模は、 $0.34 \times 0.23$ m、深さ0.16mである。基盤層上面で検出した。72土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [56 土坑] (第4・7図、図版2)

梢円形状の小土坑で、規模は、 $0.38 \times 0.3$ m、深さ0.51mである。基盤層上面で検出した。土師器壺小片が出土した。

#### [57 土坑] (第4・7図、図版2)

梢円形に近い不整形な形状の土坑で、規模は、 $0.87 \times 0.6$ m、深さは0.43mである。基盤層上面で検出した。72土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [58 土坑] (第4・7図、図版2)

円形に近い不整形な形状の土坑で、規模は、 $0.68 \times 0.61$ m、深さは0.1mである。基盤層上面で検出した。71土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [59 土坑] (第4・7図)

隅丸三角形状に近い不整形な形状の土坑で、規模は、 $0.7 \times 0.43$ m、深さ0.16mである。基盤層上面で検出した。60土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [60 土坑] (第4・7図、図版2)

梢円形状の土坑で、規模は、 $0.75 \times 0.68$ m、深さ0.36mである。59土坑に切られる。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### [61 土坑] (第4・7図、図版2)

東壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては梢円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.37 \times 0.31$ m、深さ0.11mである。5層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、62土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [62 土坑] (第4・7図、図版2)

東壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては梢円形状を呈する。検出長は、 $0.75 \times 0.5$ m、深さ0.3mである。5層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、61土坑に切られる。遺物の出土はなかった。

#### [63 土坑] (第4・7図)

隅丸三角形状の土坑で、規模は、 $0.57 \times 0.56$ m、深さ0.13mである。基盤層上面で検出した。64土坑、65土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### [64 土坑] (第4・7図)

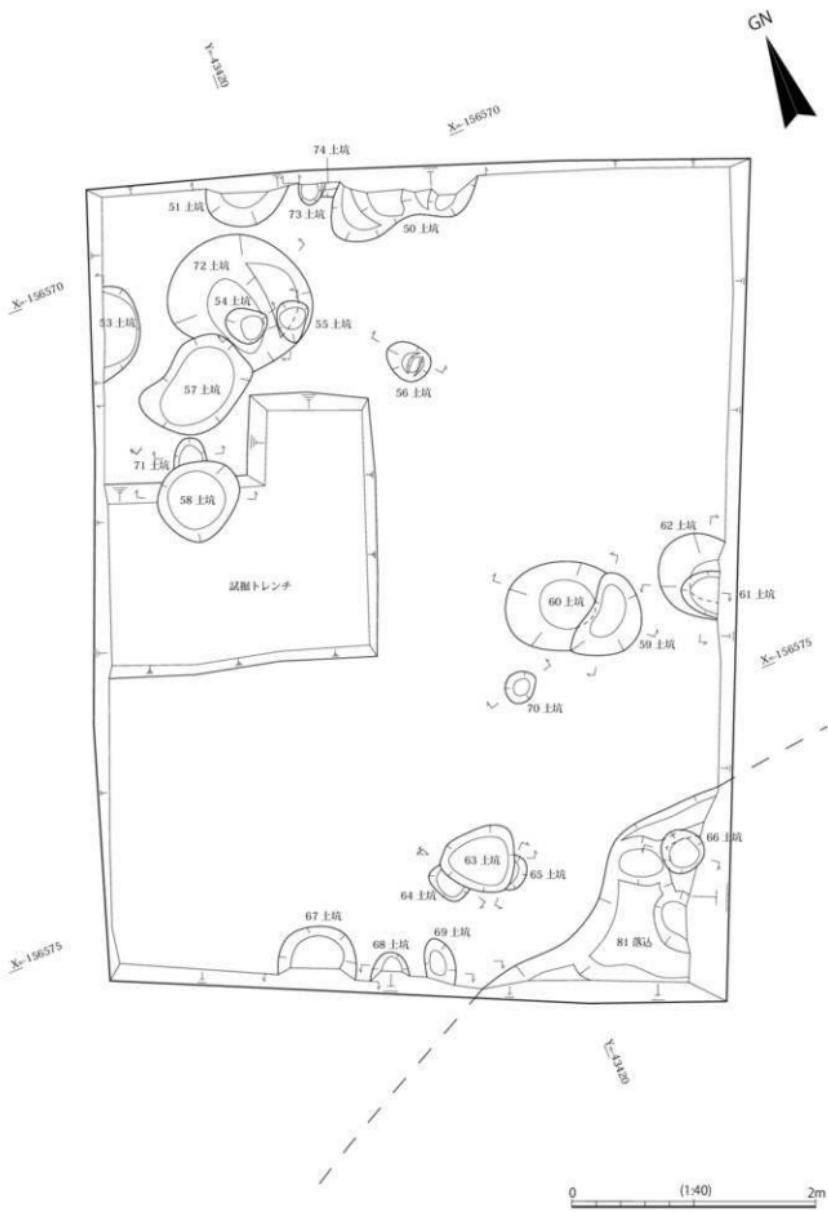
63土坑に切られるため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては梢円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.32 \times 0.16$ m、深さ0.13mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### [65 土坑] (第4・7図)

63土坑に切られるため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲においては梢円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.3 \times 0.12$ m、深さ0.11mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### [66 土坑] (第4・7図、図版2)

円形の小土坑で、規模は、直径0.35m、深さ0.05mである。基盤層上面で検出したが、81落込を切るため、本来は5層上面以上の土層面から掘り込まれたもので



第4図 A区平面図 1:40

あったと考えられる。遺物の出土はなかった。

#### 【67 土坑】(第4・7図)

南壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲内においては楕円形状を呈する。検出長は、 $0.67 \times 0.37$  m、深さ 0.2 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、遺物の出土はなかった。

#### 【68 土坑】(第4・7図、図版2)

南壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲内においては楕円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.35 \times 0.22$  m、深さ 0.34 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、遺物の出土はなかった。

#### 【69 土坑】(第4・7図)

南壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲内においては楕円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.37 \times 0.29$  m、深さ 0.27 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、遺物の出土はなかった。

#### 【70 土坑】(第4・7図)

楕円形状の小土坑で、規模は、 $0.27 \times 0.23$  m、深さ 0.05 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【71 土坑】(第4・7図)

58 土坑に切られるため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲内においては楕円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.26 \times 0.2$  m、深さ 0.27 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【72 土坑】(第4・7図、図版2)

楕円形状の土坑で、規模は、 $1.15 \times 0.82$  m、深さ 0.15 m である。基盤層上面で検出した。54 土坑、55 土坑、57 土坑に切られる。遺物の出土はなかった。

#### 【73 土坑】(第4・5・7図、図版1)

北壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であ

るが、検出範囲においては円形状を呈する小土坑である。検出長は、 $0.19 \times 0.17$  m、深さ 0.15 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、74 土坑を切る。土師器瓦片が出土した。

#### 【74 土坑】(第4・5・7図、図版1)

北壁際で検出し、50 土坑、73 土坑によって切られるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、 $0.14 \times 0.12$  m、深さ 0.1 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む土坑で、土師器瓦の比較的大きな破片が出土した。

## (2) B 区の調査

B 区においては、落込を 1 基のはか溝を 3 条、土坑を 4 基確認した。

#### 【76 溝】(第6・7図、図版4)

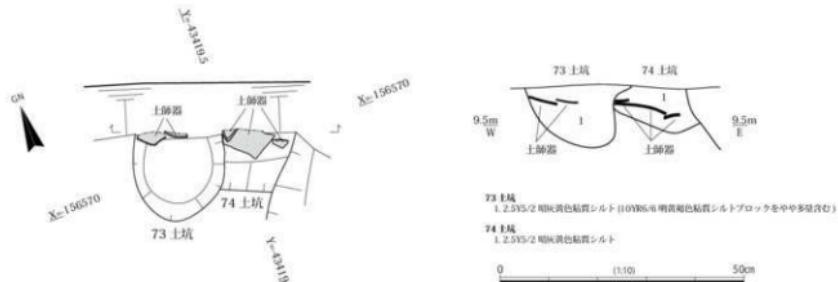
幅 0.12 ~ 0.2 m、深さ 0.02 ~ 0.06 m の溝で、南東 ~ 北西方向へ伸びるが、両端とも調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、5.13 m である。3 層下・基盤層上面から掘り込む。77 溝を切り、75 土坑、79 土坑に切られる。81 落込の掘り込み肩と平行することから 81 落込と関連する溝である可能性が考えられる。また 77 溝、82 溝とも平行関係にある。遺物の出土はなかった。

#### 【77 溝】(第6・7図、図版4)

76 溝、75 土坑に切られるため形状、規模など全容は不明であるが、南東 ~ 北西方向へ伸びる溝である。検出規模は、長さ 0.9 m、幅 0.12 ~ 0.3 m、深さ 0.08 m である。3 層下・基盤層上面から掘り込み、82 溝を切る。76 溝、82 溝と平行関係にある。遺物の出土はなかった。

#### 【78 溝】(第6・7図、図版4)

幅 0.2 m、深さ 0.04 m の溝で、東南東 ~ 西北西方向へ伸びるが、西壁外へ伸びるため形状、規模など全容は不



第5図 73 土坑・74 土坑遺物出土状況平・断面図 1:10

明である。検出長は、0.6 mである。基盤層上面で検出した。76溝、77溝、82溝とは方向が異なり、その方向性は、B区、C区間に現存する水路の方向性に近い。遺物の出土はなかった。

#### 【82溝】(第6・7図、図版4)

幅0.18 m、深さ0.05 mの溝で、南東～北西方向へ伸びるが、77溝、75土坑に切られるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、0.61 mである。3層下・基盤層上面から掘り込む。76溝、77溝とは平行関係にある。遺物の出土はなかった。

#### 【75土坑】(第6・7図、図版4)

北壁・西壁際で検出したため形状、規模など全容は不明であるが、検出範囲内においては東西に長い形状を呈する。検出長は、2.11×0.28 m、深さ0.09 mである。3層下・基盤層上面から掘り込み、76溝、77溝、82溝を切る。また78溝とは平行関係にある。遺物の出土はなかった。

#### 【79土坑】(第6・7図、図版4)

椭円形状に近い不整形な土坑で、規模は、0.45×0.33 m、深さ0.03 mである。基盤層上面で検出した。76溝を切る。遺物の出土はなかった。

#### 【80土坑】(第6・7図、図版4)

円形に近い不整形な土坑で、規模は、0.32×0.31 m、深さ0.04 mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

## (3) C区の調査

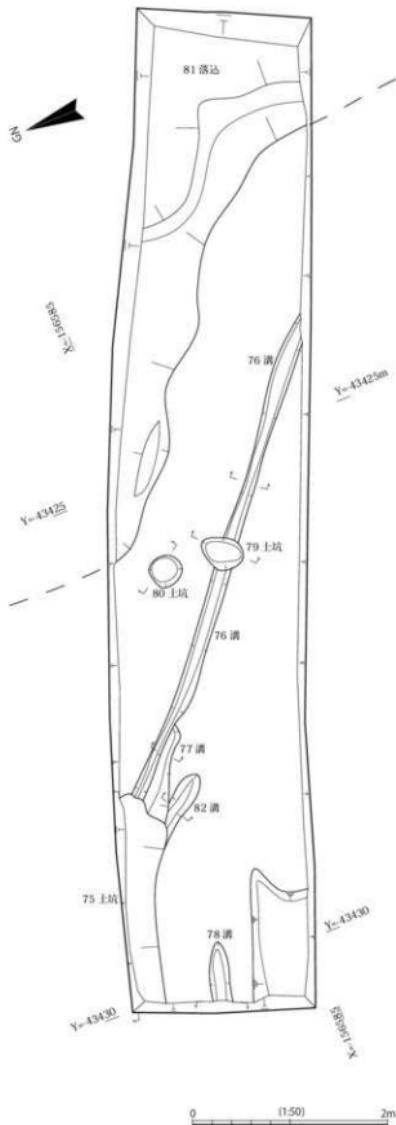
C区においては、溝を10条、土坑を26基、落込を1基確認した。溝・土坑は、落込の西側（西部とする）と東側（東部とする）の2カ所に分布する。

#### 【11溝】(第10・12図、図版6)

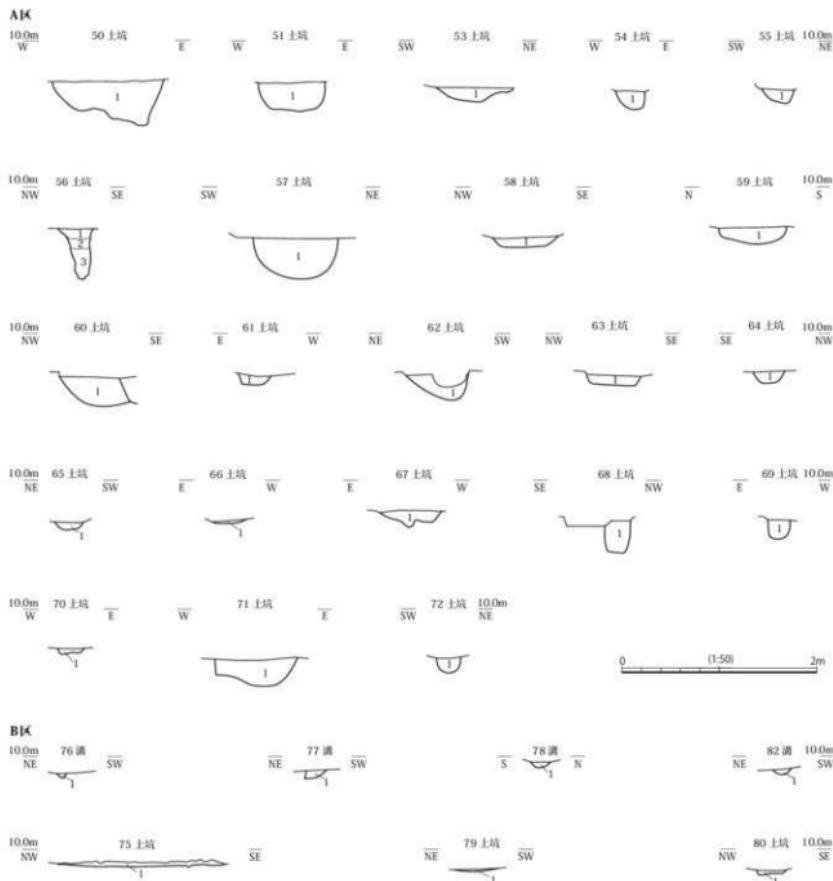
東部に位置する幅0.67～1.68 m、深さ0.1～0.15 mの溝で、北東～南西方向に緩やかに蛇行して伸びるが、両端とも調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、8.72 mである。4層下・基盤層上面から掘り込む。12溝、13土坑、18土坑を切り、16土坑に切られる。形状から自然流路である可能性が高い。土師器小皿・羽釜・須恵器甕が出土したが、いずれも小片であった。

#### 【12溝】(第10・12図、図版6)

東部に位置する幅0.59 m、深さ0.17～0.31 mの溝で、東～西方向に伸びるが、11溝によって切られるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、2.07 mである。基盤層上面で検出した。13土坑、23土坑にも切られる。



第6図 B区平面図 1:50



- A区**
- 50 土坑 1.2SY/2 明黄褐色粘質シルト  
51 土坑 1. (10YR6/6 明黄褐色粘質シルト 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
53 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
54 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
55 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
56 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
57 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
58 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
59 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
60 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
61 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
62 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
63 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
64 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト  
65 土坑 1. 2.5Y/2 明黄褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
66 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
67 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
68 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
69 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
70 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
71 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
72 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
73 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト (10YR6/6 明黄褐色粘質シルトブロック少量含む)  
74 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
75 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
76 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
77 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
78 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
79 土坑 1. 2.5Y/2 黑褐色粘質シルト  
80 土坑 1. 10YR2/1 黑褐色粘質シルト
- B区**
- 76 溝 1. 2.5Y/2 黄褐色粘質シルト  
77 溝 1. 2.5Y/2 黄褐色粘質シルト  
78 溝 1. 2.5Y/2 黄褐色粘質シルト  
79 溝 1. 2.5Y/2 黄褐色粘質シルト  
80 溝 1. 10YR2/1 黑褐色粘質シルト

第7図 A区・B区構造断面図 1:50

### 【17溝】(第10・12図、図版6)

東部に位置する幅0.22～0.3m、深さ0.03～0.08mの溝で、北東～南西に伸びる。北東端は19溝によって切られるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、5.5mである。基盤層上面で検出した。16土坑にも切られる。土器窓（器種不明）、瓦器窓が出土したが、いずれも小片であった。

### 【19溝】(第10・12図、図版6)

東部に位置する幅0.22～0.35m、深さ0.04～0.07mの溝で、東～西に伸びたのち緩やかに南西へ曲線して終端となる。東端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、2mである。3層下・5層上面より掘り込む。17溝、18土坑を切る。遺物の出土はなかった。

### 【24溝】(第9・12図、図版6)

西部に位置する幅0.16～0.26m、深さ0.01～0.05mの溝で、東南東～西北西に伸びる。検出長は、2.91mである。基盤層上面で検出した。25溝、30溝、27土坑、81落込を切る。その方向性は、B区、C区間に現存する水路の方向性に近い。遺物の出土はなかった。

### 【25溝】(第9・12図、図版6)

西部に位置する幅0.92～1.77m、深さ0.08～0.22mの溝で、南南西～北北東に伸びるが、南端、北端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、6.29mである。3層下・4層上面から掘り込む。24溝に切られ、30溝、29土坑、81落込を切る。土器窓、瓦質土器擂鉢・甕が出土したが、いずれも小片であった。

### 【30溝】(第9・12図、図版6)

西部に位置する南～北に伸びる溝であるが、東半部を25溝に切られ、北端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出規模は、長さ3.87m、幅0.52～1.17m、深さ0.13～0.18mである。基盤層上面で検出した。81落込を切り、24溝、29土坑にも切られる。

### 【37溝】(第9・12図、図版6)

西部に位置する幅0.53～0.72m、深さ0.09～0.12mの溝で、東南東～西北西に伸びるが、東端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、4.4mである。5層下・基盤層上面から掘り込む。42土坑を切る。遺物の出土はなかった。

### 【43溝】(第8・12図、図版6)

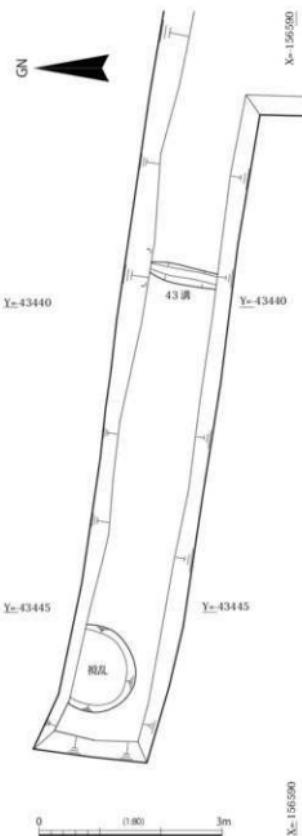
西部に位置する幅0.3m、深さ0.09mの溝で、南南西～北北東に伸びるが、南端、北端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、1.03mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【45溝】(第10・12図)

東部に位置する幅0.12m、深さ0.05mの溝である。東西方向のものと思われるが、東端を44土坑に切れ、西端は、調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、0.16mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【10土坑】(第10・12図、図版7)

東部に位置する土坑で、南東～北東方向に伸びる細長い溝状を呈する。規模は、3.46×0.58m、深さ0.09～0.3mである。基盤層上面で検出した。樹根痕など自然成因の土坑である可能性がある。遺物の出土はなかった。



第8図 C区西端部平面図 1:80

### 【13 土坑】(第10・12図)

東部に位置する楕円形に近い不整形な形状の小土坑で、規模は、 $0.4 \times 0.31$ m、深さ0.1mである。基盤層上面で検出した。12溝を切り、11溝に切られる。遺物の出土はなかった。

### 【14 土坑】(第10・12図、図版7)

東部に位置する楕円形状の小土坑である。規模は、 $0.34 \times 0.25$ m、深さ0.1mで、基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【15 土坑】(第10・12図)

東部に位置する土坑で、遺構の東側が調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、隅丸方形に近い不整形である。検出した規模は、 $1.96 \times 1.07$ m、深さ0.08mで、4層下・基盤層上面から掘り込む。土師器壺、須恵器壺が出土したが、いずれも小片であった。

### 【16 土坑】(第10・12図、図版7)

東部に位置する隅丸方形～円形状に近い形状の土坑である。規模は、 $0.76 \times 0.71$ mで、深さは、0.4mまで掘削したが、湧水のため遺構底部は確認できなかった。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【18 土坑】(第10・12図)

東部に位置する土坑であるが、11溝、19溝に切られ、形状、規模など全容は不明である。検出規模は、 $1.71 \times 0.53$ m、深さ0.1mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【20 土坑】(第10・12図)

東部に位置する楕円形状の土坑である。規模は、 $0.78 \times 0.66$ mで、深さは、0.35mまで掘削したが、湧水のため遺構底部は確認できなかった。基盤層上面で検出した。瓦質土器壺の小片が出土した。

### 【21 土坑】(第10・12図、図版7)

東部に位置する土坑であるが、東側が調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、隅丸方形に近い不整形を呈する。検出規模は、 $2.58 \times 1.29$ m、深さ0.45～0.8mで、3層下・基盤層上面から掘り込む。81落込を切る。湧水が顕著である。土師器（器種不明）・壺、須恵器（器種不明）、瓦器碗が出土したが、いずれも小片であった。

### 【23 土坑】(第10・12図)

東部に位置する楕円形に近い不整形な形状の小土坑で、規模は、 $0.29 \times 0.24$ m、深さ0.08mである。基盤層上面で検出した。12溝を切る。遺物の出土はなかった。

### 【26 土坑】(第9・12図)

西部に位置する隅丸三角形状の土坑で、規模は、 $0.47 \times 0.36$ m、深さ0.07mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

× 0.36 m、深さ 0.07 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【27 土坑】(第9・12図)

西部に位置する円形状の小土坑で、規模は、 $0.19 \times 0.18$ m、深さ0.05mである。基盤層上面で検出した。24溝に切られる。遺物の出土はなかった。

### 【28 土坑】(第9・12図)

西部に位置する楕円形状の小土坑で、規模は、 $0.48 \times 0.31$ m、深さ0.06mである。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【29 土坑】(第9・12図)

西部に位置する土坑であるが、東側を25溝に切れるため形状、規模など全容は不明である。検出した範囲内では、円形状の小土坑と思われ、規模は、 $0.34 \times 0.17$ m、深さ0.04mである。81落込埋土の上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【31 土坑】(第9・12図)

西部に位置する隅丸三角形に近い不整形な形状の土坑である。規模は、 $1.31 \times 0.48$ m、深さ0.04mである。81落込埋土の上面で検出した。遺物の出土はなかった。

### 【32 土坑】(第9・12・17図、図版7)

西部に位置する土坑であるが、西側が調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出した範囲内では、北東～南西方向の長楕円形に近い不整形な形状で、規模は、 $2.76 \times 1.47$ m、深さ0.35～0.6mである。基盤層上面で検出した。40土坑を切る。埋土の状況や形状から風倒木痕もしくは樹根痕である可能性がある。なおサスカイト製の無茎式石鎌が出土しており、第17図6に図示する。

### 【33 土坑】(第9・12図)

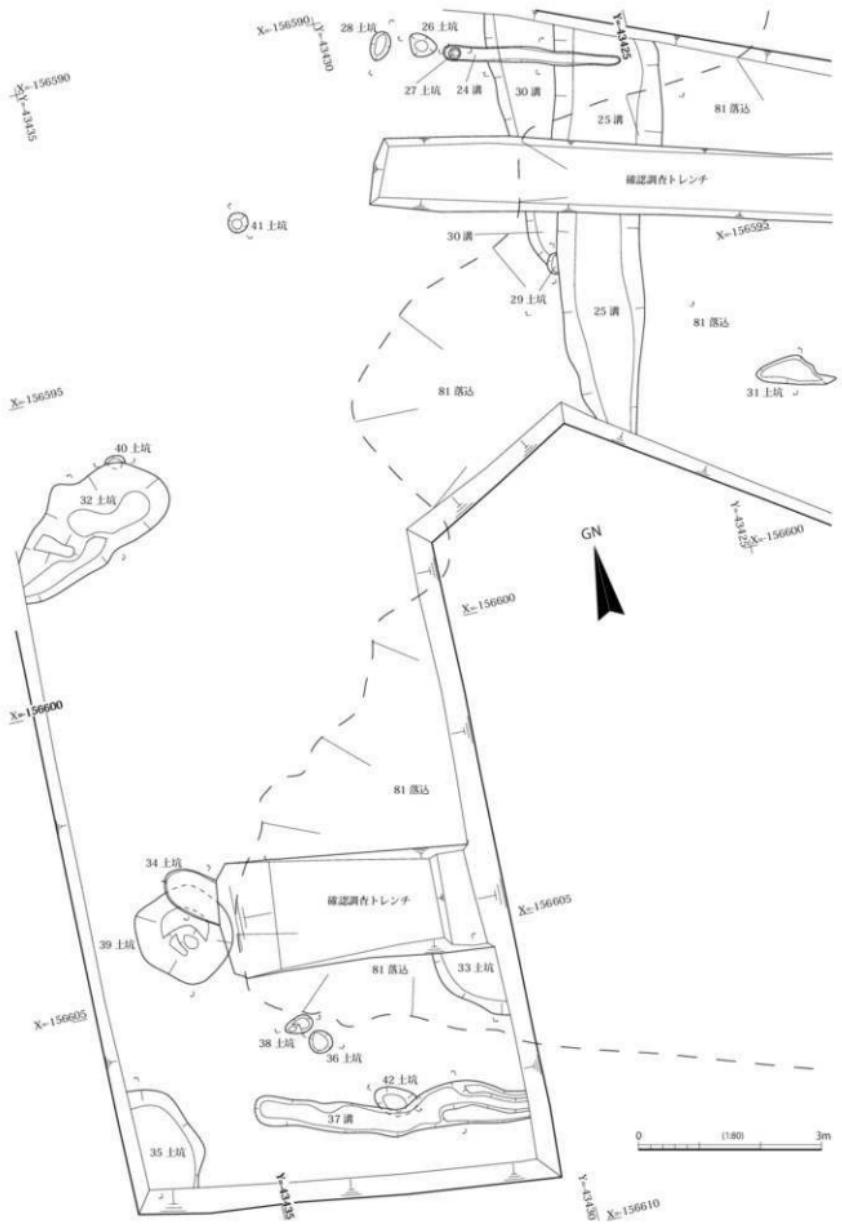
西部に位置する土坑であるが、東側が調査区外に伸び、北側を確認調査時のトレント掘削により損壊するため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、円形を呈するようにも思える。規模は、 $1.17 \times 0.91$ m、深さ0.08mである。3層下・81落込埋土の上面から掘り込む。土師器（器種不明）、須恵器壺、瓦器碗が出土したが、いずれも小片であった。

### 【34 土坑】(第9・12図)

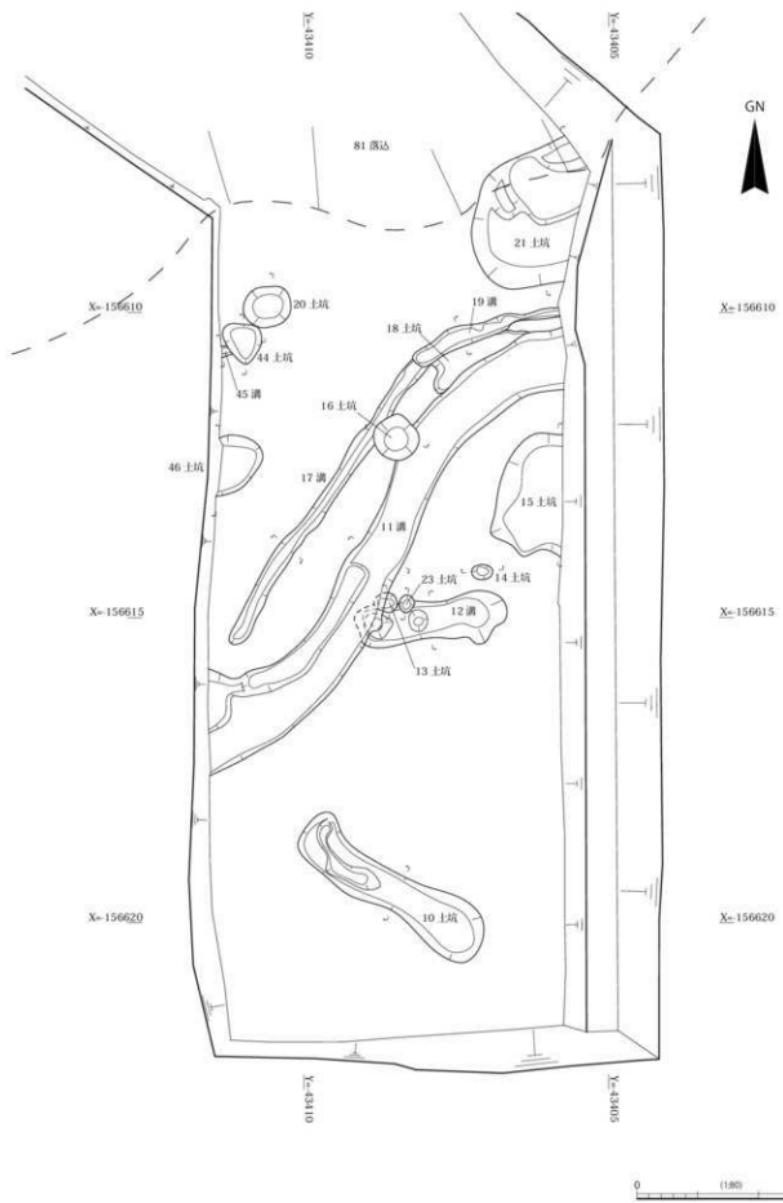
西部に位置する土坑であるが、東側を確認調査時のトレント掘削により損壊するため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、楕円形状を呈し、規模は、 $0.93 \times 0.67$ m、深さ0.04mである。基盤層上面で検出した。39土坑を切る。瓦器碗小片が出土した。

### 【35 土坑】(第9・12・17図、図版7)

西部に位置する土坑であるが、西側と南側が調査区外



第9図 C区西部平面図 1:80



第10図 C区東部平面図 1:80

に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、楕円形状を呈するようにも思える。規模は、 $1.58 \times 0.95$  m、深さ 0.09 m である。5 層下・基盤層上面から掘り込む。瓦器小皿が出土した。第 17 図 5 に図示する。

#### 【36 土坑】(第 9・12 図、図版 7)

西部に位置する楕円形に近い不整形な形状の土坑である。規模は、 $0.39 \times 0.37$  m、深さ 0.19 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【38 土坑】(第 9・12 図)

西部に位置する楕円形に近い不整形な形状の土坑である。規模は、 $0.47 \times 0.27$  m、深さ 0.1 m である。基盤層上面で検出した。土師器椀小片が出土した。

#### 【39 土坑】(第 9・12 図、図版 7)

西部に位置する隅丸方形に近い不整形な形状の土坑である。規模は、 $1.62 \times 1.57$  m、深さ 0.42 ~ 0.95 m である。基盤層上面で検出した。34 土坑に切られる。樹根痕の可能性がある。土師器（器種不明）、須恵器杯が出土地したが、いずれも小片であった。

#### 【40 土坑】(第 9・12 図)

西部に位置する土坑であるが、南側を 32 土坑に切られるため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、円形状の土坑のように思える。規模は、 $0.34 \times 0.13$  m、深さ 0.17 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【41 土坑】(第 9・12 図)

西部に位置する円形状の土坑で、規模は、 $0.34 \times 0.32$  m、深さ 0.12 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【42 土坑】(第 9・12 図)

西部に位置する隅丸三角状の土坑で、規模は、 $0.65 \times 0.46$  m、深さ 0.13 m である。基盤層上面で検出した。37 溝に切られる。遺物の出土はなかった。

#### 【44 土坑】(第 10・12・17 図)

東部に位置する隅丸三角状の土坑で、規模は、 $0.66 \times 0.65$  m、深さ 0.23 m である。基盤層上面で検出した。45 溝を切る。須恵器蓋が出土した。第 17 図 4 に図示した。

#### 【46 土坑】(第 10・12 図)

東部に位置する土坑であるが、西側が調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出範囲内では、楕円形状のように思える。規模は、 $0.97 \times 0.69$  m、深さ 0.17 m である。基盤層上面で検出した。須恵器小皿が出土した。

#### 【81 落込】(第 11・17 図、図版 8)

A 区、B 区、C 区にわたる落込である。遺構全体は、

調査区外に及ぶため形状、規模など全容は不明である。検出範囲から推測する限りでは、本調査においては、本落込の西縁と南縁の一部を検出した状況である。その形状は不整形で、推測される西縁は凹凸が著しい波状形状を呈する。規模は、東西 30 m 以上、南北 33 m 以上を測り、深さは、0.6 ~ 0.8 m である。底面の形状は概ね平坦である。遺構の検出作業は基盤層上面で行ったが、土層の観察・検討により 4 層下・5 層上面から掘り込まれたものであることがわかった。24 溝、25 溝、30 溝、21 土坑、29 土坑、31 土坑、33 土坑、66 土坑により遺構の一部を切られる。遺物は、土師器甕小片、須恵器杯小片、円筒埴輪片が出土した。第 17 図 1 に須恵器杯、2 に円筒埴輪を図示する。遺構の掘り込み層から本遺構は、中世以降の所産と考えられるので、図示した須恵器杯、円筒埴輪は明らかに二次採集遺物であるが、本遺跡の古墳時代を知る資料として有効なものである。本遺構の性格については明確にはしないが、溜池状のものであった可能性が高いだろう。またあるいは本遺構の所在箇所は粗砂等を地盤とする箇所であることから、土壤改良の痕跡とも考えられる。いずれにせよ農耕に関わるものと考えられる。

## (4) Da 区の調査

Da 区においては、溝を 2 条、土坑を 8 基確認した。そのうち溝 1 条は、北部に位置し、土坑 2 基は南端部、その他は南東部に集中する。

#### 【1溝】(第 13・16 図、図版 10)

北部に位置する幅  $0.33 \sim 0.44$  m、深さ  $0.16 \sim 0.23$  m の溝で、南東～北西方向へ伸びるが、両端とも調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、7.76 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【6溝】(第 14・16 図、図版 10)

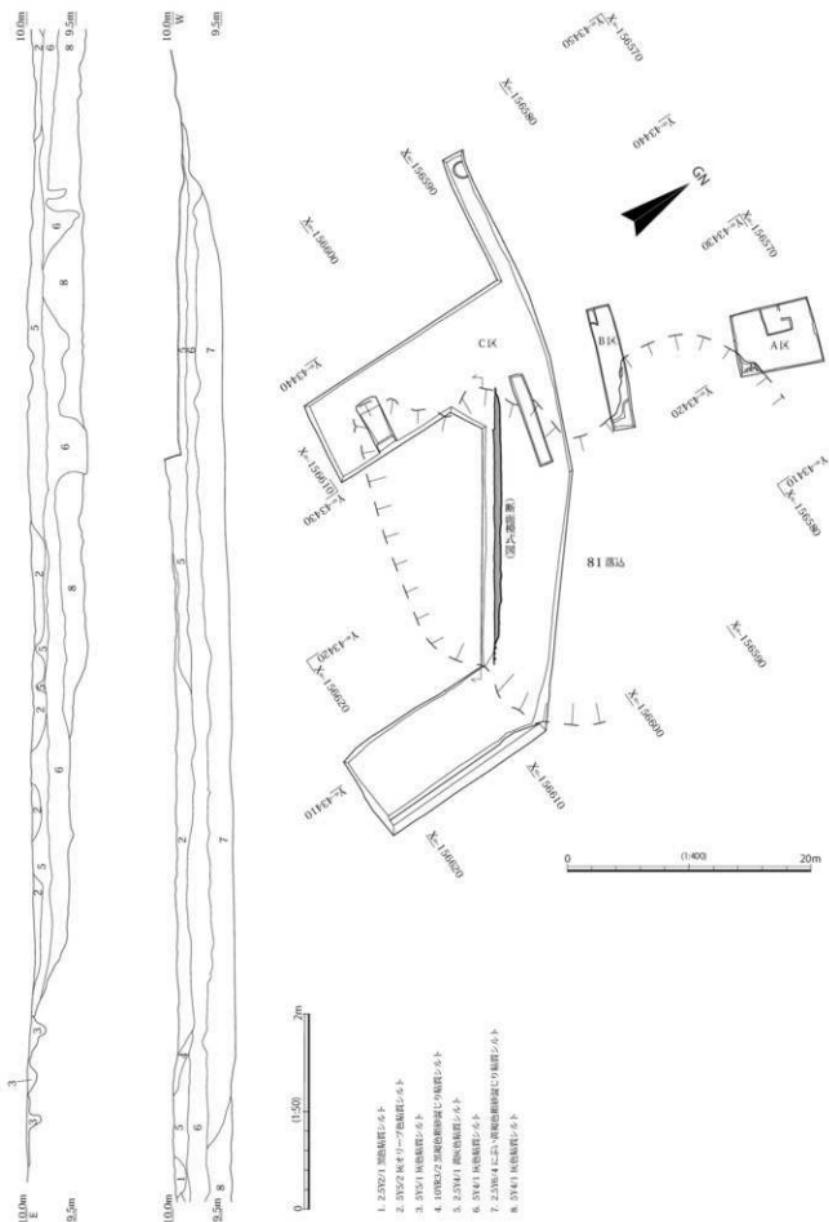
南東部に位置する幅  $0.16 \sim 0.26$  m、深さ  $0.04 \sim 0.06$  m の溝で、南南東～北北西へ伸びるが、南端は調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。検出長は、4.72 m である。3 層下・基盤層上面から掘り込む。7 土坑、8 土坑を切る。遺物の出土はなかった。

#### 【2土坑】(第 14・16 図、図版 10)

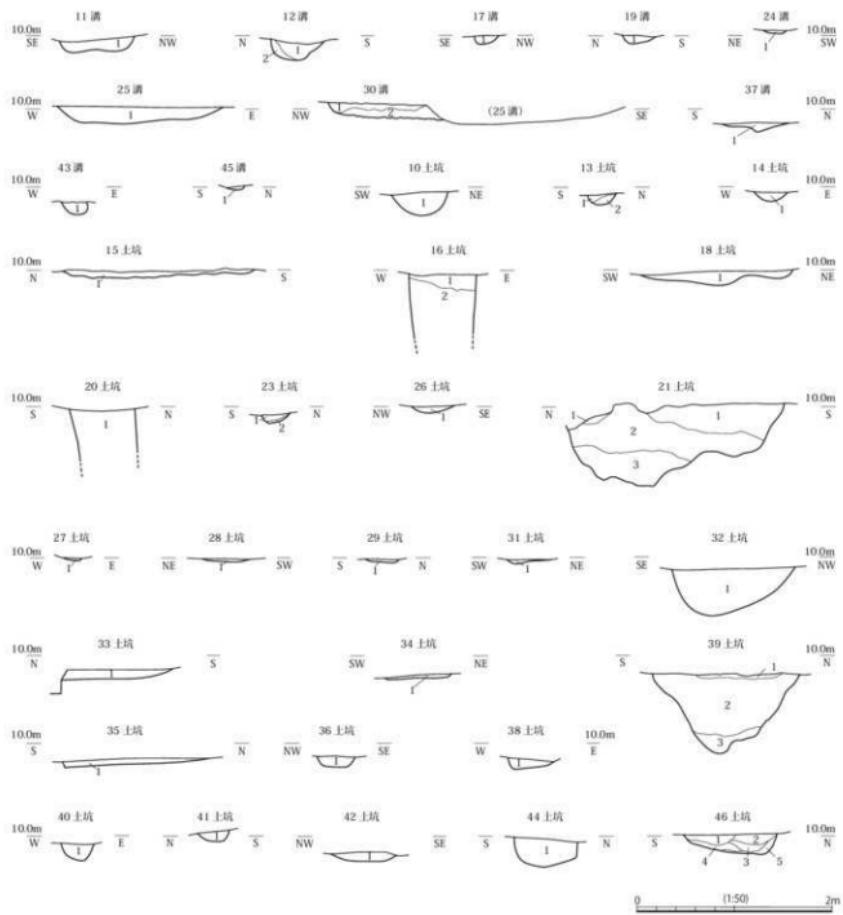
南東部に位置する楕円形に近い不整形な形状の土坑で、規模は、 $0.9 \times 0.6$  m、深さ  $0.06 \sim 0.08$  m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【3土坑】(第 14・16 図、図版 10)

南東部に位置する東西に長い溝状の土坑で、その形状



第11図 81落込平面図 1:400・断面図 1:50



第12回 C区連携断面図 1:50

34.上級  
34-1/2 黒黄色細胞壁面に黒質シルト

1. 10W/3 黒褐色細胞壁シルト
2. 10W/3 黑褐色シルト
3. 10W/3 黑褐色リーフリーブラック少混合)

35.上級  
35-1/2 黑褐色細胞壁ルート

1. 12W/2 黑褐色細胞壁ルート
2. 12W/2 黑褐色細胞壁ルート(少混合)
3. 12W/2 黑褐色細胞壁ルート(少混合)
4. 12W/2 黑褐色細胞壁ルート(少混合)

36.上級  
36-1/2 黑褐色細胞壁シルト

1. 10W/5 黑褐色細胞壁シルト(少混合)

37.上級  
37-1/2 黑褐色細胞壁シルト

1. 10W/5 黑褐色細胞壁シルト(少混合)

38.上級  
38-1/2 黑褐色細胞壁シルト

1. 10W/6 黑褐色細胞壁シルト(少混合)

39.上級  
39-1/2 黑褐色細胞壁シルト

1. 10W/6 黑褐色細胞壁シルト(少混合)

40.上級  
40-1/2 黑褐色細胞壁シルト

1. 10W/6 黑褐色細胞壁シルト(少混合)

41.上級  
41-1/2 黑褐色細胞壁ルート

1. 10W/3 黑褐色細胞壁ルート

42.上級  
42-1/2 黑褐色細胞壁ルート

1. 10W/3 黑褐色細胞壁ルート

43.上級  
43-1/2 黑褐色細胞壁シルト

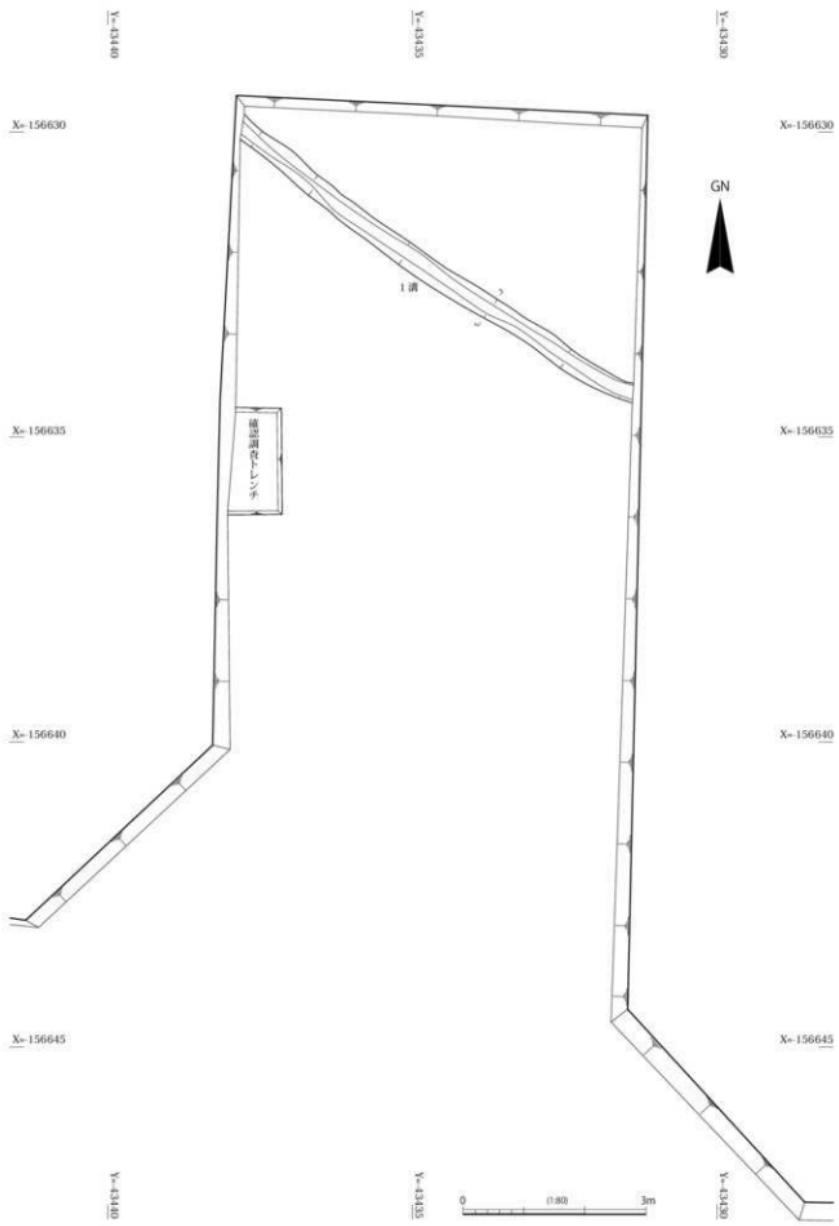
1. 10W/3 黑褐色細胞壁シルト

44.上級  
44-1/2 黑褐色細胞壁面に黒質シルト

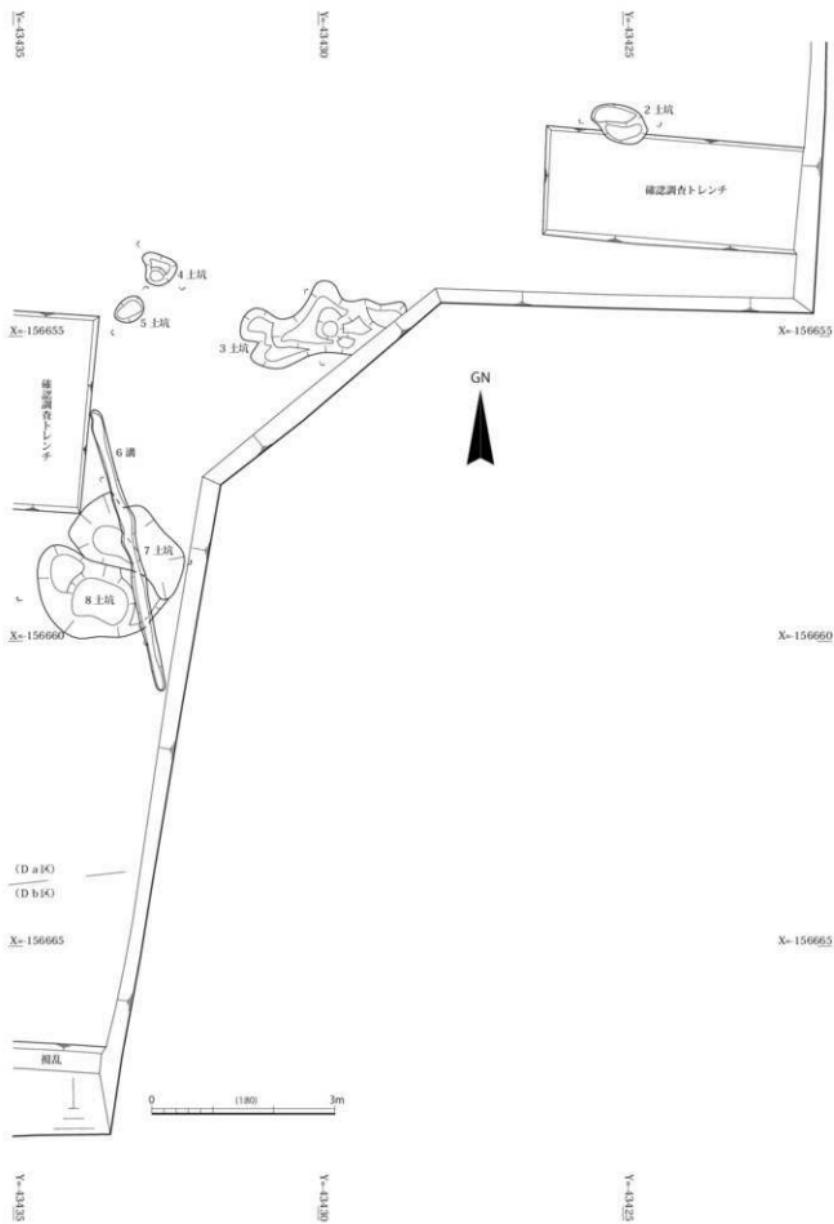
1. 10W/3 黑褐色細胞壁面に黒質シルト

45.上級  
45-1/2 黑褐色細胞壁面に黒質シルト

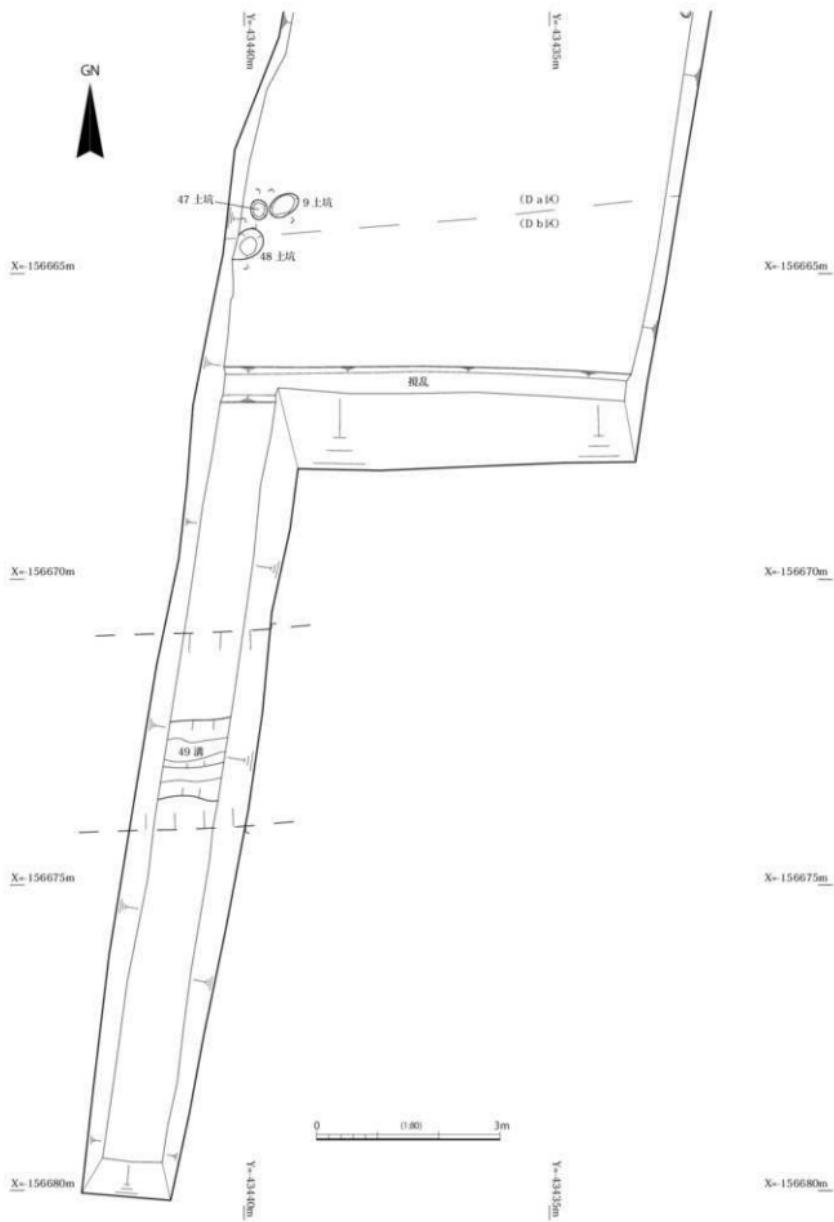
1. 10W/3 黑褐色細胞壁面に黒質シルト



第13図 Da区北部平面図 1:80



第14図 D-a区南東部平面図 1:80



第15図 Da区南端部・Db区平面図 1:80

は不整形である。規模は、 $2.37 \times 0.74 \sim 1.16$  m、深さ 0.1 ~ 0.5 m である。4 層下・基盤層上面から掘り込む。埋土の状況や形状から風倒木痕もしくは樹根痕である可能性がある。遺物の出土はなかった。

#### 【4 土坑】(第 14・16 図、図版 10)

南東部に位置する隅丸三角形に近い不整形な形状の土坑で、規模は、 $0.6 \times 0.5$  m、深さ 0.16 ~ 0.25 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【5 土坑】(第 14・16 図、図版 10)

南東部に位置する楕円形状の土坑で、規模は、 $0.5 \times 0.4$  m、深さ 0.08 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【7 土坑】(第 14・16 図、図版 10)

南東部に位置する不整形な形状の土坑で、規模は、 $2.01 \times 0.91$  m、深さ 0.56 m である。4 層下・基盤層上面から掘り込む。8 土坑を切り、6 溝に切られる。遺物の出土はなかった。

#### 【8 土坑】(第 14・16 図、図版 10)

南東部に位置する不整形な形状の土坑で、規模は、 $2.1 \times 1.3$  m、深さ 0.27 ~ 0.34 m である。基盤層上面で検出した。6 溝、7 土坑に切られる。遺物の出土はなかった。

#### 【9 土坑】(第 15・16 図、図版 10)

南端部に位置する楕円形状の土坑で、規模は、 $0.51 \times 0.32$  m、深さ 0.1 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

#### 【47 土坑】(第 15・16 図)

南端部に位置する楕円形状の小土坑で、規模は、 $0.32 \times 0.25$  m、深さ 0.05 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

## (4) D b 区の調査

D b 区においては、溝を 1 条、土坑を 1 基確認した。

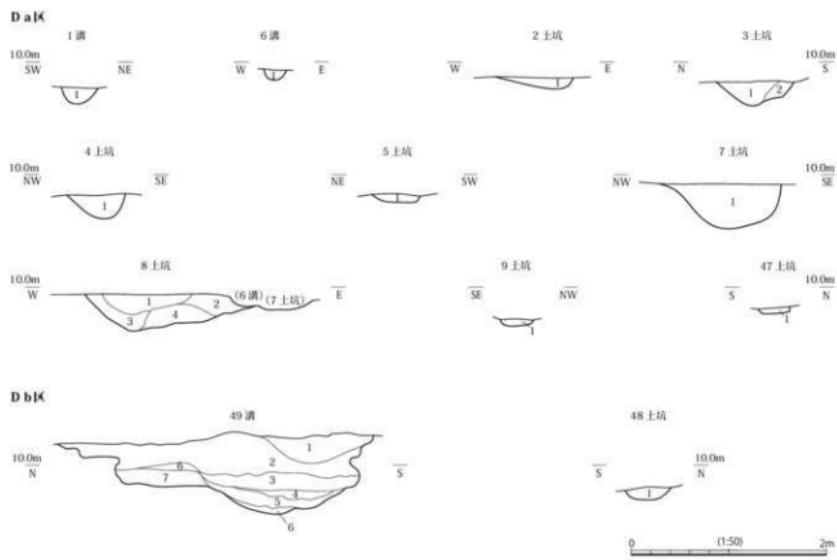
#### 【49 溝】(第 15・16 図、図版 11)

調査区を東西に横断する溝で、東側、西側とも調査区外に伸びるため形状、規模など全容は不明である。遺構の検出は基盤層上面で行ったため、その規模は、幅 1.25 m、深さ 0.28 ~ 0.38 m、検出長 0.89 m となるが、本来当該の溝は、土層観察から 2 層下・3 層上面から掘り込まれており、掘り込み面での規模を復元すると、幅 3.25 m、深さ 0.79 m の大溝である。須恵器甕小片、施釉陶器鉢小片が出土した。溝の方向性と検出位置から条里地割の坪塙を画する大溝である可能性が考えられる。時期的には掘り込み面や出土遺物からは、近世のものと思われるが、もともとは古代から継承されてきたものだった

のではなかったかと考えるものである。

#### 【48 土坑】(第 15・16 図、図版 11)

楕円形状の土坑と思われるが、西端が調査区外に伸びるため全容は不明である。検出した規模は、 $0.52 \times 0.43$  m、深さ 0.1 m である。基盤層上面で検出した。遺物の出土はなかった。

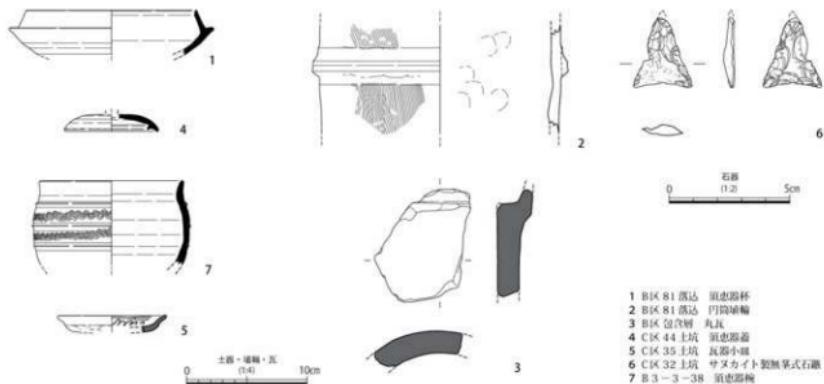


- D a 区**
- 1 潟 1. 2SY3/1 黒褐色粘質シルト
  - 6 土坑 2. 10YR3/2 黒褐色粘質シルト
  - 2 土坑 3. 1.2SY3/3 黑褐色シルトに 10YR4/6 に赤い黄褐色細砂ブロック少量含む
  - 3 土坑 4. 1.0YR2/2 黑褐色粘質シルト
  - 4 土坑 5. 1.0YR4/1 和田色粘質シルト
  - 5 土坑 6. 1.0YR3/1 黑褐色粘質シルト
  - 5 潟 7. 2.5Y4/2 須灰質シルトと 10YR3/1 黑褐色粘質シルトが混じる

- D b 区**
- 7 土坑 1. 10YR3/1 黑褐色粘質シルト
  - 8 土坑 2. 2.5Y3/2 和田色粘質シルト
  - 1 潟 3. 2.5Y3/2 和田色粘質混じりシルト
  - 9 土坑 4. 10YR3/2 黑褐色粘質シルト
  - 4 土坑 5. 2.5Y3/2 和田色粘質混じりシルト
  - 4 土坑 6. 1.0YR3/1 黑褐色粘質シルト
  - 4 土坑 7. 2.5Y4/1 黑褐色粘質シルト

- D b 区**
- 49 潟 1. 10Y4/1 黄色シルト
  - 2. 2.5Y3/2 和田色粘質シルト
  - 3. 2.5Y3/2 和田色粘質シルト
  - 4. 10YR5/1 黄色粘質
  - 5. 10Y4/1 黄色粘質
  - 6. 10YR4/1 黄色粘質
  - 7. 10YR5/1 黄色粘質
- 48 土坑**
- 1. 10YR3/1 黑褐色粘質シルト

第 16 図 D a 区・D b 区遺構断面図 1 : 50



第 17 図 出土遺物図 土器・埴輪・瓦 1 : 4 石器 1 : 2

- 1 B区 81 漏斗 手取器杯
- 2 B区 81 漏斗 円筒埴輪
- 3 B区 81 漏斗 丸瓦
- 4 C区 44 上坑 手取器蓋
- 5 C区 32 上坑 瓦器小瓶
- 6 C区 32 上坑 サヌカイト製無柄式石器
- 7 B 3 - 3 - 38 手取器蓋

## 5 結語

今回の調査において確認された遺構は、主に農耕に関するものであった。建物跡など集落居住域に関わる遺構は見当たらない。大和川今池遺跡の既往の調査では、主に溜池「今池跡」の北方（現今池水みらいセンター内）と遺跡西端の微高地に古墳時代、奈良～平安時代、中世といった各時代の集落居住域があったことがわかっているが、それらの居住域の広がりは今回の調査地付近にまでは至らないことが今回確認できた。しかしながら古墳時代以降の遺物が散見できることからまったくの荒蕪地ということでもなく農耕など生産域として利用されたのである。今回検出された溝や落込などは、時代を特定することには躊躇するものがあるが、性格的には耕作に伴うものと考えられる。殊に複数検出された溝の中に、いくつか正方位をとるもののが存在することには注目するものである。C区12溝、30溝、D b区49溝である。大和川今池遺跡の現況は、近年の都市開発により、水田が失われ現在はほほ見る影もないが、数十年前までは地表面に条里制土地区画を示す水田景観がよく遺存されていた。しかしながら調査地周辺は、その条里区画が乱れ、地表面で確認できない地域であったが、今回、条里制区画を推察される溝群を確認できたことで、本来は一応に施されていた条里制土地区画が、調査地付近の一部において、後世に乱されたものであることが確認できたものである。特に坪境と思われる大溝を確認できたことは、今後、市域における条里制土地区画の復元に寄与できるものと思われる。

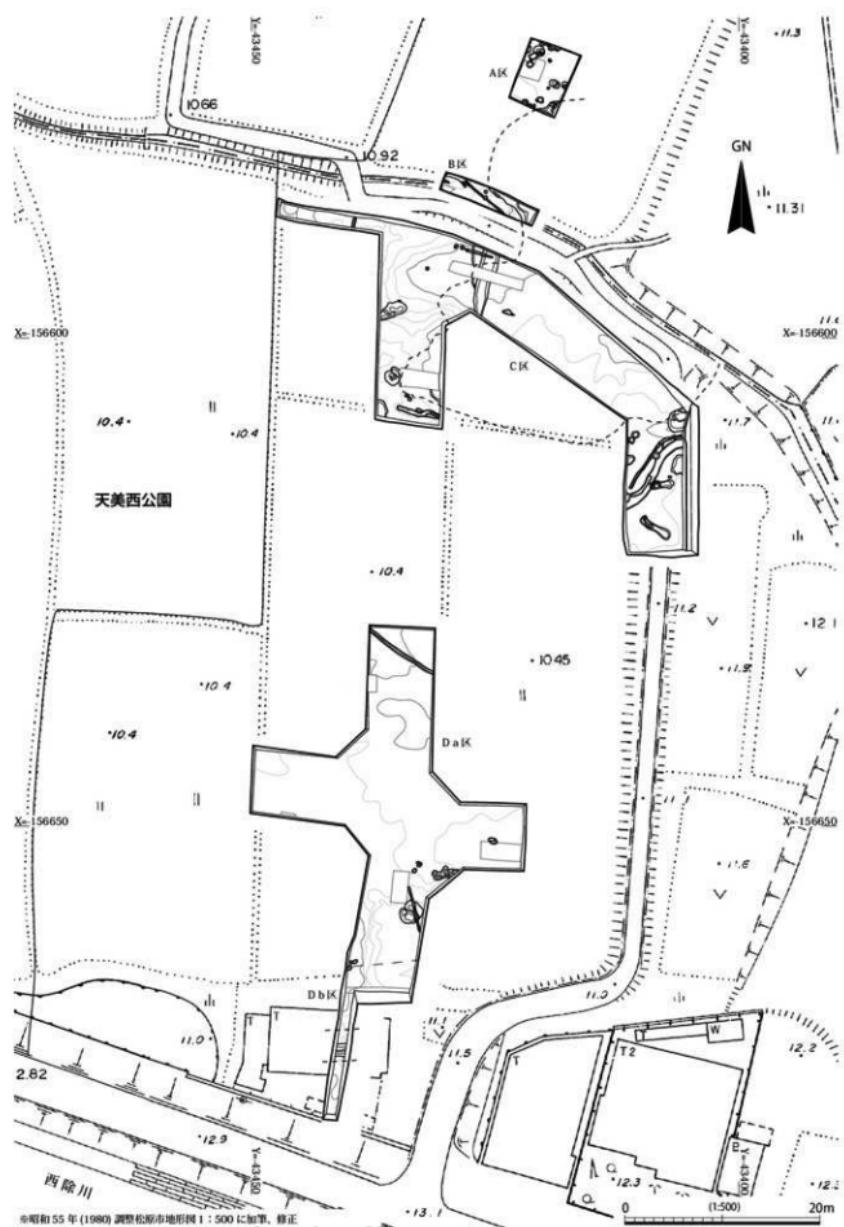
今回の調査地は、狐塚古墳跡とされる遺跡範囲も調査範囲である。狐塚古墳は、もともと当該地に狐塚と称される小規模な塚状の高まりがあったことから古墳の名残りと推測されたものである。発掘調査など具体的な調査はまったく行われずに現在は消滅してしまっている。跡

地は現在、府道大阪狭山線道路敷である。昭和23年(1948)の航空写真を見ると未だ府道大阪狭山線の痕跡すらなく、古墳らしき小丘を認めることができる。昭和50年(1975)の航空写真では、府道大阪狭山線の工事中の写真となっており、既に平坦化されて小丘は確認できない。狐塚古墳は、道路工事により消滅したものと思い込んでいたが、今回、昭和46年(1971)の航空写真を確認したところ府道の用地買収の形跡は認められるものの道路形態は未だない状態ではあったが、狐塚古墳跡の箇所には小丘は既になく、長形の建造物の存在が確認できた。昭和31年(1956)の松原市全図には、小丘状の記載が認められるので、狐塚古墳は、昭和31年(1956)～昭和46年(1971)の間に民間開発により消滅したことがわかったものである。

さて今回の調査では、二次採集遺物はあるが、円筒埴輪を採集することができた。狐塚古墳の実態が不明な中で、円筒埴輪を採集できたことはせめてもの資料となりうると思われる。ただし、狐塚古墳跡周辺の小字名をみれば、字「狐塚」のほかにも字「品塚」、字「塚本」といった古墳の存在を想起させる小字名が見られるので、採集した円筒埴輪も概に狐塚古墳跡のものであるとは言い切れないものである。これらは現在小字名のみ知るもので古墳の実態はまったく確認されていないが、小規模な古墳群を形成していた可能性も考えられる。

今後、今回の調査を踏まえ、さらに大和川今池遺跡、狐塚古墳跡の実態解明に調査が進展することを期待するものである。





第19図 全体平面図 1:500



図 版



昭和 22 年 (1947) 当時の調査地周辺  
(国土地理院 USA-M18-1-94 より編集)



平成 29 年 (2017) 当時の調査地周辺  
(国土地理院 CKK20174-C12-8, CKK20174-C12-10 より編集)



全景（東から）



73号坑・74号坑出土物（南から）



北壁土層



51号坑（南から）



55号坑（東から）

図版2  
A区の調査



56 土坑（南から）



57 土坑（東から）



58 土坑（南から）



60 土坑（南から）



61 土坑・62 土坑（西から）



66 土坑（南から）



68 土坑（北から）



72 土坑（東から）

図版3  
B区の調査



全景（西から）



全景（東から）



全景（北から）



南壁土層



北壁土層

図版4  
B区の調査



76 溝（北から）



76 溝（西から）



77 溝（西から）



78 溝（東から）



82 溝（西から）



75 土坑（南から）



79 土坑（西から）



80 土坑（南から）



全景（北から）



西部全景（南から）



東部全景（南から）



西部東壁土層



東部東壁土層

図版 6  
C 区の調査





10 土坑（東から）



14 土坑（南から）



16 土坑（南から）



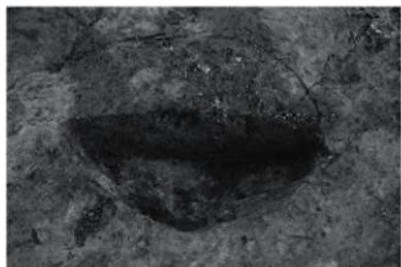
21 土坑（西から）



32 土坑（東から）



35 土坑（西から）



36 土坑（南から）



39 土坑（東から）

図版8  
81落込(A区・B区・C区)の調査



C区検出状況（南から）



A区完掘状況（西から）



B区の土層（西から）



C区の土層（北から）



C区の土層（南から）

図版9  
D a 区の調査



全景（北から）



南部全景（北から）



北壁土層



東部東壁土層



西部西壁土層

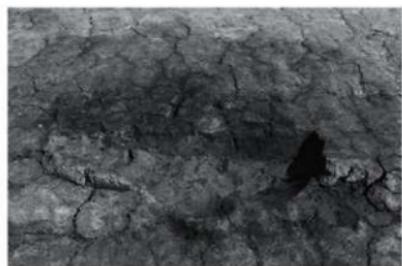
図版  
10  
Da区の調査



1溝（西から）



6溝（南から）



2土坑（南から）



3土坑（南から）



4土坑（南から）



5土坑（西から）



7土坑・8土坑（北西から）



9土坑（北から）



全景（北から）



49 溝上層部（西から）



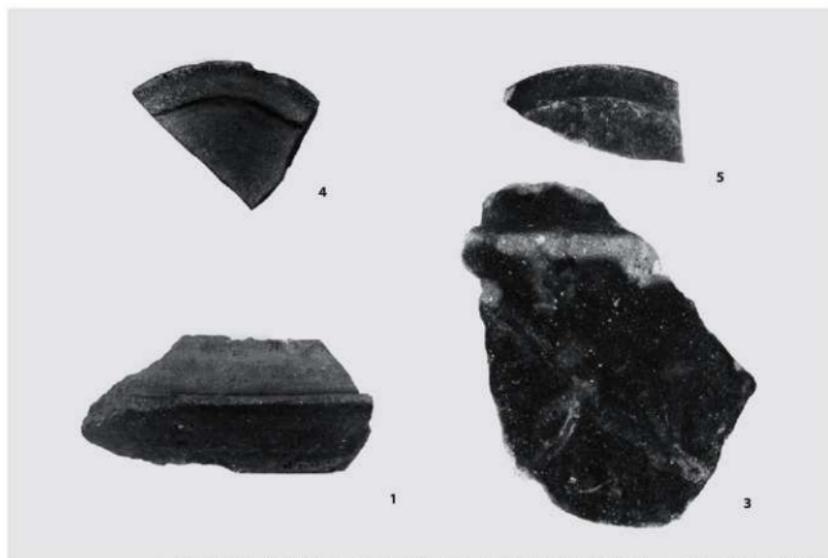
49 溝下層部（西から）



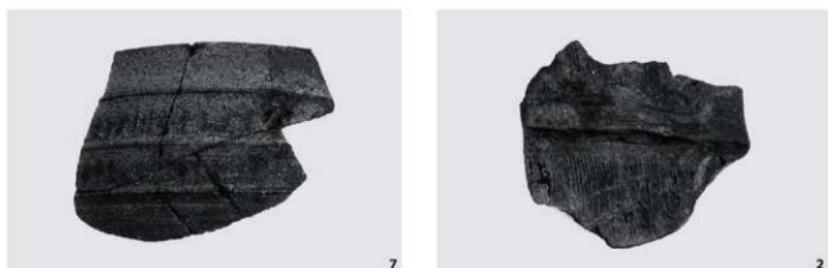
48 土坑（東から）



東壁土層



1 B区 81落込 須恵器杯、3 B区包含層 丸瓦、4 C区 44土坑 須恵器蓋、5 C区 35土坑 瓦器小皿



2 B区 81落込 円筒埴輪  
7 B 3-3-38 須恵器椀



6 C区 32土坑 サヌカイト製無茎式石器

報告書抄録

松原市文化財報告 第7冊

## 大和川今池遺跡・狐塚古墳跡

松原市天美西5丁目・6丁目地内における宅地造成工事に伴う  
大和川今池遺跡・狐塚古墳跡B3-3-39発掘調査報告書

【発行年月日】 令和2年（2020）5月31日

【編集・発行】 松原市教育委員会

〒580-8501 大阪府松原市阿保1丁目1番1号

【印刷・製本】 能登印刷株式会社

〒920-0855 石川県金沢市武藏町7番10号



大和川今池遺跡・狐塚古墳跡  
(所在地:大阪府柏原市大和西)